

ニイハオからツアイチエンまで

—国際大学交流セミナーを終えて—

副学長(国際交流・地域連携担当)

淡野明彦

秋もたけなわとなってきた10月9日の夕刻、われわれ奈良教育大学のスタッフは関西国際空港の国際線北入国口で西安外国語大学の一行を迎えた。東方語言文化学院副院長の馬永平先生引率のもとに、教員2名と学生9名の一行であった。全員が日本語コースの所属であるために、日本語で挨拶を交わした。

用意した小型バスに乗り、奈良へ向かう。学生諸君はすべてが日本へは初めての訪問で、薄暮のなかにオレンジ色に浮かび上がる空港連絡橋に感動の声をあげている。阪神高速道路湾岸線に入ると、左右に世界都市大阪の夜景が展開する。朝早くの出発であったために一行はやや疲れ気味にみえたが、それでも車窓の景観に釘付けになっていた。内陸部にある西安ではめったに見ることのできない景色であり、一行の感動ぶりは相当なものだっただろう。

西名阪自動車道に入ると、あたりには建物が少ないくなり、しだいに車窓は暗くなっていった。オーバーな表現だが、現代から過去へとタイムスリップしていくような気分を感じた。疲れが極に達したのか、車内には寝息がじょじょに漂ってくる。最初に伝えておくべき話も終えたので、こちらも一息である。西安の一行には長く感動の一日であっただろう。

奈良教育大学と西安外国語大学(旧称は西安外国語学院)との学術協定による正式な交流は2005年6月からスタートしたが、それまでに基礎的なベースは築かれていた。すでに定年を迎

えて退職された国文学の真鍋先生、漢文学の川北先生の研究室が主となって、お二人の先生が西安に講義に赴かれ、また西安からの留学生を迎えてきていた。奈良で学んだ留学生が母校の教壇に立たれ、また西安の国家行政機関の職に付かれるという、着実な成果があがっていた。この成果をどのように発展させるかが、本学の国際交流面での大きな課題であった。

2004年4月から全国の国立大学は「国立大学法人」という聞きなれない冠言葉をかぶせた組織となった。国が財政的な面で関与する仕組みは維持しつつも、経営の具体面では各大学の独自性をもたせ、教育・研究の一層の充実と発展を目指そうとする意図をもった政策であった。この方針に基づいたおおむね6年間の「中期目標・計画」が作成された。その中で、重点的に取り組む内容の一つに「アジアを広域的な地域の一つとして視野に入れ、教育研究上の国際交流を広く推進する。」を項目としてうたった。アジアの大学では韓国のヨナンン大学と協定に基づく交流を久しくおこなってきたが、アジアの大国である中国との間では正式な交流は一枚もなかった。そこでこの機会に西安との交流を正式なものとする判断に舵取りをした。

西安は中国を代表する古都であり、奈良に築かれた平城京はその西安の都城計画にならったといわれている。また、シルクロードの重要拠点として日本につながり、さらには共にユネスコの「世界文化遺産」に登録されている物件を有している



奈良市長表敬訪問

という類似性がある。大学の重点的な課題に、世界遺産を個性ある教育研究、学際的研究に活かしていこうとする一項もあり、まさに西安は恰好の相手方であった。検討の過程で「師範大学」との交流の提案もあったが、機運が熟するには今しばらくの状況であり、今後の取り組みとした。

どのように西安との具体的交流のスタートを図ろうかと思案していたときに、折りしも独立行政法人日本学生支援機構とみずほ国際交流奨学財団から「国際大学交流セミナー事業」の募集があった。この事業は外国の大学生を日本に招いて、日本の大学生との間で共通のテーマを設定して議論や見学を行おうとする企画である。本学と西安とが共に有する世界遺産を取り上げ、「世

大学の取り組み

日程表

10/10	奈良教育大学長表敬訪問 馬永平副院長、張芸文主任、他学生9名 開講式 基調講演：「アジアの世界遺産と環境」 上野邦一氏：(財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所事業委員会委員 奈良女子大学生生活環境学部生活文化学科教授 学内案内：吉備塚説明： 金原正明：奈良教育大学助教授、 山岸公基：奈良教育大学助教授 講演：「奈良の世界遺産と環境」 淡野明彦：奈良教育大学副学長、教授 歓迎パーティー
10/11	講演：「奈良県勢の概要について」 中山悟氏：奈良県企画部観光交流局文化国際課長 講演：「平城遷都1300年記念事業について」 廣野隆信氏：平城遷都1300年記念事業推進局次長 施設見学：奈良県庁内(県庁屋上から奈良の世界遺産遠望) 実地見学：古都奈良の文化財：興福寺～東大寺～春日大社を巡る
10/12	講演：「奈良の文化遺産～仏像と伽藍の変化を中心として」 田淵五十生：奈良教育大学教授 授業体験：「奈良の伝統文化～能を中心として」 田淵五十生：奈良教育大学教授 奈良の伝統：「芸能の鑑賞」 金春穂高氏：金春流シテ方
10/13	講演：「ACCU奈良事務所の役割と事業の概要について」 太郎田明憲氏：ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所次長 施設見学：「ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所」 商工観光館：奈良の伝統・工芸の見学 奈良市長表敬訪問 講演：「西安市と西安の世界遺産」 西安外国語大学学生による紹介 ホストファミリー対面 (ホームステイ～15日：2泊3日)
10/14	奈良の伝統産業に触れる 麵う館～けいはんな学研都市～高山茶苑 <small>ちやん</small> の里
10/15	ホームステイ先での交流
10/16	実地見学：奈良の世界遺産と最先端技術 平城宮跡～唐招提寺～薬師寺～法隆寺～シャープ天理工場 秋季留学生懇談会(歓迎会)への参加
10/17	講演：「奈良教育大学の文化財の研究について」 長友恒人：奈良教育大学副学長、教授 大山明彦：奈良教育大学助教授 全体討議 西安外国語大学学生による体験発表 閉講式 さよならパーティー

世界遺産を通じた環境教育と文化理解教育に関する「日中セミナー」と題して応募した結果、みずほ国際交流奨学財団により事業採択がなされた。いよいよ5日間におよぶセミナーの開始である。開講式には一夜にしてすっかりと疲れがとれた学生諸君の生き生きとした姿があった。取り立てて紹介をしなければ、日本人学生と何ら区別がつかないファッションで、「ケータイ」も「デジカメ」も手にしていた。一行の接遇にあたっては生活スタイルの違いが気にかかっていたが、中国内陸部とはいえ西安という巨大都市の生活はかなり国際スタンダード化が進んでいるらしく、安堵した面が多かった。世界文化遺産「古都奈良の文化財」の東大寺、春日大社、興福寺など、同じく「法隆寺地域の仏教建造物群」の見学、奈良県庁

での県内の文化財に関する講義、西安市と姉妹都市関係にある奈良市の市長訪問、本学学生との世界遺産の保全・保護に関する討論など時間刻みの盛りたくさんのメニューであったが、一行は飽きることもなく興味津々で臨んでくれた。特筆すべきことは3泊4日のホームステイで、離日前夜のお別れパーティーではまるで親子や兄弟、そして孫のように、涙顔でお互いに抱き合ったり、それを惜しんでいたことである。ホストファミリーの方に渾身の歓待をいただいた結果であり、感謝にたえない。

セミナーはささやかな規模ではあったが、日中交流という面での期待した成果を得ることができた。今後、このセミナーを機に大学間の交流事業をより具体化させ、人的交流を推進したい。

体験発表する王 歆さん



本学学生の体験発表に対する質問



開講式後の記念撮影



シャープ天理工場見学